

12月6日

主教ニコラス

Ἅγιος Νικόλαος

(? ~ 345 / 352)

～サンタクロースのモデル～

ニコラスはミラ（現在のトルコ）の主教ですが、そのほかのことはほとんど知られていません。325年におこなわれたニカイア公会議に出席した可能性もありますが、ディオクレティアヌス帝の時代に迫害や拷問にあった記録が残っているだけです。しかし彼にはさまざまな伝説が残されています。

たとえば、あるとき総督が三人の兵士を無実であるにもかかわらず、賄賂をもらって死刑の判決を言い渡したことがあったそうです。その時ニコラスは処刑場に行き、刑の執行をやめさせて、さらに総督が間違いを認めるまで論したと言われます。

また貧しい家の三人の娘が病人の父親を救うために、自らの身を売ろうとしたことがありました。その時にニコラスは、窓から金袋を投げ入れ、娘たちと父親を助けたと伝えられています。

その他にも、ニコラスには小麦をいくら使っても減らさなかったり、子どもを生き返らせたり、誘拐された子どもを連れ戻したり、嵐を静めたりと、あらゆる言い伝えが残っています。

このような伝説から、スイスやドイツ、フランス、オランダなどではニコラスは子どもを守る聖人とされていきます。その結果、彼の祝日の前の日、12月5日に子どもに贈り物をする習慣も生まれ



「ミラの聖ニコライ

無実の三人を死刑から救う」

イリヤ・レービン画

1844～1930

ます。これを移民たちがアメリカ大陸に伝えて、サンタクロースが誕生したと考えられています。ちなみに「クロース」とはニコラスの英語なまりとも、オランダ語読みとも言われます。

ニコラスはこれらの伝説からもわかるように、大変人気のある聖人でした。6世紀にはコンスタンティノポリスにその名のついた教会が建てられ、また9世紀には全てのギリシア教会で、聖母マリアに次ぐ聖人として崇拝されます。そして10世紀にオットー2世が東ローマ帝国から妃を迎えたことにより、西欧でもニコラスに対する崇敬がはじまります。その人気はとどまるところを知らず、11世紀にはイタリアの兵士がニコラスの遺物を盗み出すという事件までも起こります。その遺物はバリへと移されますが、そのことで西欧全体に、その人気が広まることとなりました。英国では400もの教会が彼にささげられています。

<特禱>

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教ニコラスを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン